

『第18回 若手技術者・研究者による技術研究発表会』開催報告

日本写真測量学会関西支部では、2022年9月9日（金）に『第18回 若手技術者・研究者による技術研究発表会』を40名の参加者（うち、学生11名、社会人5名の発表者）のもと、3年ぶりの完全対面形式で、大阪公立大学I-site なんばにて開催しました。本発表会は、空間情報の生成・利用・応用のあらゆる分野に携わる35歳以下の技術者・研究者の発表技術向上と研究発展に資することを目的としており、今回もユニークなテーマで16件の発表と活発な質疑応答が行われました。なお、発表・質疑の時間を1件につき20分当てており、活発な討論ができる点も本発表会の特徴です。

プログラムは、①論文等の執筆に向けた今後の取りまとめについての発表及び討議する「研究・討議」（セッション1,2）、②実務業務内容等の報告、新技術の利用、実務を通じてこれまで経験されてきたことや法規制度等に対する論説を対象とする「研究・技術報告」（セッション3）、③研究に着手したばかり、あるいは研究の方向性の検討段階での発表の「萌芽的研究」（セッション4）、の3つのグループで構成しています。

「研究・討議」では、各研究課題の目的に対する結果と考察について発表され、背景と目的の位置づけの重要性や、今度の課題に対するアイデアの確認など、研究を取りまとめていく上で有用となる討議が行われました。「研究・技術報告」では、質疑の時間を多めに配分しました。実社会での空間情報技術の活用による新たな取り組みや応用可能性についての発表があり、続く質疑では、手法の妥当性や計測精度向上のための手法の検討、技術手法の他分野での展開可能性など、活発な議論となりました。「萌芽的研究」では、主に卒業研究で取組んできた内容をベースにこれから修士研究で取組んでいく課題の設定や進捗について報告され、会場からは、研究目的を明確にする重要性や、既存研究のレビュー、発表資料の構成など、多くのアドバイスをいただきました。また、久しぶりの対面開催ということもあり、会場では、休憩時間も参加者間での議論の続きなどが行われ、有意義な時間となりました。

発表会の最後に、本支部役員の審査に基づいて、以下の方に「優秀研究発表賞」を授与しました。

優秀研究発表賞

繁森 央一（京都大学大学院）

小林 知生（京都大学大学院）

川井 千晃（東京農工大学大学院）

本支部では、来年度以降も本発表会を継続していく予定です。支部役員一同、より多くの若手技術者・研究者からの発表参加をお待ち申し上げます。